

授業科目名	成人看護学臨地実習Ⅰ(慢性期)	担当教員	松尾ミヨ子
必修	開講年次：3年後期	単位：3単位	授業形態：臨地実習 135時間

【授業概要】

対象の慢性的・長期的に経過する健康障害や機能障害の特性を理解し、適切な看護過程の展開を経験する。成人期にある対象の生活やセルフケア能力に焦点をおき、疾患管理、日常生活行動の自立、QOLの維持向上について学ぶ。この実習において、学生は慢性疾患や機能障害を持つ患者の看護に関わるが、グループ内でのカンファレンスを通して、多様な患者の看護問題を理解し、チームとして患者を支えることの意味を学修する。

【授業目的・目標】

目的：慢性疾患・機能障害をもつ患者を対象として、その健康レベルとニーズに合わせた看護実践を行う。

1. 慢性疾患・機能障害をもつ患者の身体的・精神的・社会的状況を把握し、看護上の問題を述べることができる。
2. 患者の生活上の問題を把握し、患者の到達目標を明確にし、必要な看護援助を計画・実践・評価できる。
3. 患者に合わせた安全で確実な援助が実践できる。
4. 慢性疾患・機能障害を持つ患者の治療や生活支援に関わる医療・保健チームの役割と必要な社会資源を理解し、連携に果たす看護の役割を理解する。
5. 自己の課題を明確にして自主的・自発的に学習活動を展開できる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」、「成人看護学概論」、「慢性期成人看護援助論」、「急性期成人看護援助論」を修得していること

【授業計画】

- 〔01〕 実習初日 午前：学内でのオリエンテーション 午後：実習病棟でのオリエンテーション
 実習1週目 慢性疾患を持つ患者を担当し、看護過程を展開、看護計画を立てる。
 〔02〕 実習2週目 中間カンファレンスを行い、看護過程の展開、計画した看護の実践、評価を行う。
 〔03〕 実習3週目 看護過程の実践・評価・修正を行い、最終カンファレンスを行う。

【教科書】

指定なし

【参考書】

成人看護学で使用した教科書だけではなく紹介したテキスト・資料も参考書とする。

1. 新体系 看護学全書 成人看護学(テキスト購入分)、メヂカルフレンド社。
 実習に必要な文献は、図書館で入手し、患者把握や看護計画に役立てる。自分で所有する携帯サイズの参考書などは実習場に持参可能。

【評価方法・評価基準】

実習目標による評価(70%)、ケースレポート(20%)、カンファレンス・プレゼンテーション(10%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：成人看護学で学習した内容(特に成人看護学概論、慢性期成人看護援助論)の学びを振り返ってまとめる。基礎看護技術は各自が実施可能であることを前提に実習が行われるため、自己学習によって練習を行うことを推奨する。血圧測定の練習を希望する場合、教員に相談すること。

事後学習：実習での学びや自己の体験を省察するため、実習終了時にケースレポートを提出する。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ. テクノロジーを効果的に活用する能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅵ. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力、Ⅷ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力、Ⅸ. あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力に関連している。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録物は4年前期に返却する

【備考】